

特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター

# 2010年度通常総会(第10回)

下記の通り、2010年度通常総会を開催します。

○日時 2010年 7月10日(土) 総会 午前10時30分～12時15分

記念シンポジウム 午後1時～3時30分

○会場 生協生活文化会館 4階 ホール

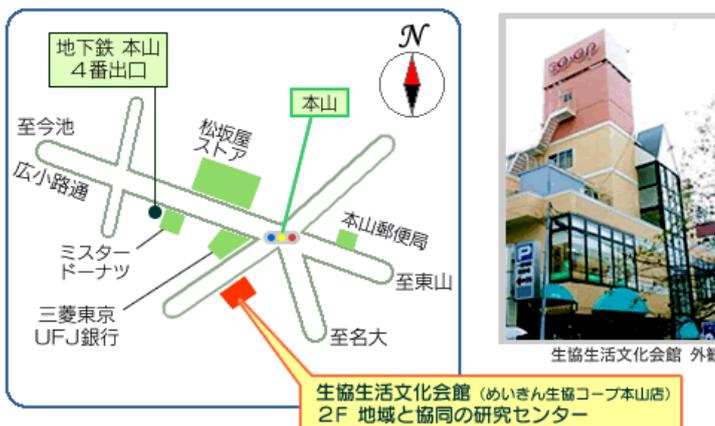
名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL052-781-8280 (地域と協同の研究センター)

○議題

- 第1号議案 2009年度事業報告と決算承認の件
- 第2号議案 2010年度事業計画と予算決定の件
- 第3号議案 定款改正の件
- 第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件

## <会場への交通>

地下鉄東山線 本山駅下車  
4番出口より徒歩2分



## 記念シンポジウム

### 「地域社会の今と協同組合」

#### ～協同っていいかも！協同組合がつくる未来を深めて～

- 講演 (予定) 東海コープグループの可能性を語る  
(予定) 地域の今と協同組合  
(予定) 社会福祉法人の実践に見る協同組合思想

- 東海コープ事業連合 寺本康美理事長  
中京大学現代社会学部 小木曾洋司先生  
名南子どもの家理事 仲田伸輝氏

第6回東海交流フォーラムでは、南医療生協成瀬専務とコープぎふ川崎理事長から報告いただき、協同組合の実践交流を行いました。第10回総会記念シンポジウムでは、生活協同組合に関わって東海コープグループ全体の実践上でのテーマや課題、また、違う視点から地域が今抱えていることや、社会福祉法人から見た協同組合についてお話いただき、参加されたみなさんと、多彩に実践交流をすすめ、地域社会の今と協同組合を考えます。



## 第1号議案 2009年度事業報告と決算承認の件

### I 2009年度活動で目標としたこと

地域と協同の研究センターでは、2010年度になってほしい中期目標として下記の内容を掲げました。

- ①会員の主体的な参加で協同組合の課題を探り、協同組合の可能性と展望を見通すことができる研究センター
- ②会員・市民・研究者の多彩な参加で地域での協同の経験を多彩に情報交流できる研究センター
- ③研究センターでの成果は、研究センターNEWS、レポート、報告集、研究誌などで蓄積され、社会的にも認められる研究センター

そして、2009年度「会員・生協、協同組織、研究者、市民が参加し、自らがすすめる調査研究活動を広げ、実践を蓄積する中で、安定した仕組みを確立することを目指し」、重点として、以下の4点を重視し取り組んできました。

- ①会員・研究者が参加し、地域社会とくらしの変化に向き合い、未来展望を構築する研究組織の探究と確立
- ②地域・市民のくらしの情報から、未来を探っていくパネルの場で新しい段階の模索
- ③地域と協同の研究センターに関わる会員・生協での学びの場の経験の蓄積
- ④こうした活動を通じ、地域と協同の研究センターへの会員加入推進

重視した4点の内容に対し下記のような成果をつくり取り組みを進め、また次期への課題が生まれています。

- ①研究組織に関して、「生協の(未来の)あり方研究会」を発足させ、2010年5月までに10回の定例研究会と2回の公開研究会を開催し、各生協から情報を収集してきました。2010年度は、こうした情報を基に、さらにテーマに接近するよう共同研究をすすめる計画です。
- ②2007年度からつくった4つのパネルの場は、2009年度それぞれの領域で、より幅広いみなさんとなつがる試みに挑戦し、新しい広がりをつくりました。2010年度それぞれの成果を土台に、さらに深め合う場にしたいと相談してきました。
- ③2009年度共同購入事業マイスターコースを始めることができました。関わる生協の事業責任者・人事担当が参加し、準備し運営を担うというすすめ方で実行でき、今後の研究センターでの学びの場のあり方を示唆するものとなりました。こうした経験を基に、2010年度組合員理事ゼミナールを開講します。
- ④2009年度までの公開研究会、パネルの取り組み、マイスターコースや学びの場の取り組みの中で、地域と協同の研究センターは、着実にその役割を広げ、研究センターがつくる場への参加を広げてきました。その結果2009年度の後半あたりから、計画した規模には至っていませんが、確実に会員加入が広がってきました。財政的な基盤づくりのためにも今後より一層加入を広げることが求められています。

### II 2009年度事業のまとめ

#### 1. 協同組合運動の理念とあり方の探究

2008年度準備してきた内容を基礎に、2009年度は生協の(未来の)あり方研究会が発足し、活動をすすめてきました。

#### 生協の(未来の)あり方第1回公開研究会

##### (1) 生協の(未来の)あり方研究会

2009年度は10回の研究会を開催し、東海の4生協と東海コープ事業連合から、理事長・専務にお越しいただき、現状と課題、生協運動への未来への問題意識についてお聞きしてきました。また、2010年2月28日(日)には東海以外の生協(エフコープ、パルスシステム生協連合会)からお越しいただき、東海の仲間、研究センターの会員も多数参加してお話をお聞きしました。



こうした研究会活動で、今生協のトップが描く「創りたい生協運動の展望」について、たくさんの情報を蓄積することができました。

(2) その他の研究組織

2009年度は、食料・農業政策に関わる研究組織、協同組合福祉に関わる研究組織について、2008年度までの経過を踏まえ考え合ってきました。協同組合福祉に関わっては、あいちの新しい生協福祉政策検討推進委員会に関わり、研究組織も想定してきましたが、独自の組織にまでは至りませんでした。

**2. 協同の主体づくり 学びと気づきの支援**

2009年度は東海の地域における協同の主体づくり事業の実績をつくることを目標とし、共同購入マイスターコースを実施してきました。

(1) コープ・カレッジ、コープ・マネジメント・スクール

コープ・カレッジ、コープ・マネジメント・スクールは2009年度で10周年を迎え、卒業生は全国で300名を超えました。2009年度を一つの区切りとして、卒業生に案内し、今後について相談する場（ポストコープ・カレッジ相談会）を持ちました。卒業された方が年何回か集い、実践を交流しながら、学び合う新しい場をつくる方向で相談しました。

(2) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組んできました。

2010年度支援を実施した生協には、①コープあおもり、②パルシステム千葉、③パルシステム生協連、④一宮生協、⑤ならコープ、⑥社会福祉法人「協同福祉会」あすなら苑、⑦エフコープ等があります。各生協が課題を多く抱える中で、支援により職員の変化、事業実績での変化の報告があります。2010年もさらに支援要請があり調整してきました。

(3) 共同購入マイスターコースの実施

2008年度準備してきた「共同購入マイスターコース」を実践しました。

東海の4生協から17名、市民生活協同組合ならコープから2名の参加で実施することができました。第1単元から第7単元まで、幅広い学びとグループワークなどでの気づきがあり、修了式では一人ひとりにマイスターバッジと修了証が、地域と協同の研究センター代表理事から手渡されました。

参加者の感想から  
「マイスターコース」を受講させていただいて、仕事に対する「心」を磨くことができました。何のために、誰のために働いているのか、自分がいったい何の誰の役に立っているのか。深く考えることができました。すべての人の心を豊かにしていく、生協はそんなことができる組織なのだと思います。誠意をもって、真心のこもった共同購入を体現できるよう、努力・工夫することを惜しまず、日々働きたいと  
思います。

マイスターコース修了式



組合員理事学び合う場づくり世話人会



(4) 「組合員理事の考え合い、学び合う場」づくり世話人会の開催

「組合員理事の考え合い、学び合う場」づくり世話人会を、11回開催し、2010年度に実施できる準備を進め、開講できる目処をつけることができました。

2010年度、組合員理事ゼミナールとして開講し、実施する中で、さらに今後の課題を探っていきます。

**3. 協同で支える領域別での探求**

領域別に、目標を持って取り組み、会員・市民の情報をさらに集積してきました。

(1) 4つの領域でのパネル

**食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル**

世話人会を2回（4月、6月）開催し、福井調査の準備を進め、7月に実行し、調査後にまとめをしました。福井の美山地域でのまちづくり、大野市の農の事例についての調査結果は、次の場づくり、内山節先生をお呼びしたワンコインおにぎりカフェの企画につながることができました。

日程	企画	内容
2009年7月9日 ～10日	福井調査	福井県大野市の里芋畑見学、JAとの交流、福井市美山地域の酒米（美山錦）の田んぼ見学、美山まちづくりNPOのみなさんと交流してきました。

**環境（自然の環 人の輪）**

世話人会を2回（4月、6月）開催し、各地域での環境の取り組みについて、交流を深めてきました。また世話人会有志で、COP10に関わり市民団体の催し等に参加し、情報を伝え合ってきました。

**食と農・環境（自然の環 人の輪）合同**

7月から食と農・環境パネルで共通する話題が多く、交流する事も目的として合同世話人会を開き、学び合いたいことを出し合い哲学者の内山節先生を囲んでの企画を準備しました。

日程	企画	内容
2010年2月21日(日)	内山節先生のワンコインおにぎりカフェ	東海交流フォーラムプレ企画として「つながることは心地いい♡」と題して、内山先生に講演いただいた後、お茶を飲みなが交流しました。会員外の参加も多く、地域でくらすこと、農のこと、環境のことを考え合い、つながることの心地よさを実感した。 参加者 71名

山間地で育み合う人と人のつながりが、豊かなくらしを育むことを学び合い、100年後のくらしを考えることから、今何が大切かを考え合いました。こうした内容から、食と農・環境を考える新たな視点を考えることができました。世話人会は合同で計7回開催し、2010年度も時々合同で開催する相談をしています。

**地域福祉を支える市民協同**

2009年度は、現状の福祉の制度や実際について深め、今後の生協や協同組織が取り組む福祉に関わる事業・モデルを探ってきました。

日程	企画	内容
2009年6月20日(土)	学習企画“在宅介護と地域福祉の結びつき”	東海エリアでの協同の現場発企画第1弾として、めいきん生協発でミニシンポスタイルの学習会を開催しました。「コープ相談センター」の取り組みから、学び合いました。
2009年7月29日(水)	社会福祉法人名南子どもの家「みよし保育園」見学と交流	社会福祉法人発で児童福祉分野について、名南子どもの家の保育所の現場から学び合いました。2009年6月1日に大高へ新築移転し、南医療生協の新病院に隣接している保育園です。
2009年9月3日(木)	みかわ市民生協発学習企画“みかわ市民生協の福祉について学ぶ”	みかわ市民生協発で、地域での福祉事業や福祉活動の実態について、見学しながら報告をお聞きし、学び合い、そこから浮かび上がる生協像を探っていきました。
2009年12月18日(木)	社会福祉法人なごや平和福祉会見学と交流	社会福祉法人発で、なごや平和福祉会の介護福祉事業の現場から学び合いました。高齢者生協運動から介護福祉への展開について知ることができました。
2010年2月8日(月)	NPO法人仕事工房ポポロ見学と交流	NPO法人仕事工房ポポロの実態を、その担い手との交流を通して学び合いました。パネルとしての新しい課題「ニート・引きこもりの問題」、コープぎふの助成基金制度について学ぶことができました。

2009年度の取り組みの中で、テーマや切り口が広がり、いろんな素材が出てきました。今後そうした素材を基に、実践の足場になるようなものをアウトプットできるよう取り組んでいきます。

**組合員と職員の接点（研究フォーラム職員の仕事を考える）**

2009年度「研究フォーラム職員の仕事を考える」では、世話人会を9回開催し相談する中で、コープみやざきから地域担当の方に来ていただいた研究集会1回、聞きとり用紙を準備し、4生協の協力いただいた支所・センターで配達を担当する職員さんからのヒアリング調査（各1回）を行ってきました。

日程	企画	内容
2009年8月7日(金)	めいきん生協港センターヒアリング	世話人会8人のメンバーで、職場学習の時間を利用させていただき、18人の担当者のみなさんのヒアリングを実施しました。
2009年9月6日(日)	第1回生協職員の仕事を考える研究集会 コープみやざき松田さん	コープみやざきから地域担当の松田(まつた)さんにお越しいただき、インタビュー形式で、地域担当の仕事についてお聞きしました。当日の内容は報告集「天使の仕事…ペテン師の仕事」としてまとめ、発行し、東海の生協、全国の生協にお届けしました。
2009年12月4日(金)	コープぎふ西濃北支所ヒアリング	世話人会9人のメンバーで、配達業務が終了した18時から行い、9人の担当者のみなさんのヒアリングを実施しました。
2010年2月15日(月)	コープみえ桑名センターヒアリング	世話人会6人のメンバーで、配達業務が終了した17時すぎから行い、6人の担当者のみなさんのヒアリングを実施しました。
2010年3月16日(火)	みかわ市民生協豊川センターヒアリング	世話人会6人のメンバーで、配達業務が終了した18時30分から行い、6人の担当者のみなさんのヒアリングを実施しました。

2008年度までは特徴的な事例から、地域担当の仕事を考えてきましたが、4生協の支所・センターで一か所ずつ、可能な職員のみなさんに協力いただき、計39人の方のヒアリングを実行しました。併せて東海以外の生協からお越しいただき、研究集会を開催しました。

これにより今の地域担当の職員の大まかな実態を把握することができました。こうした調査結果を基礎に、2010年度の活動を準備してきました。

コープみやざき松田さん



**(2) 第6回東海交流フォーラムの開催**

2010年3月13日に開催した第6回東海交流フォーラムには、118人の参加がありました。

	テーマ名	参加者数
基調対談	協同組合がつくる未来	104
第1分科会	本当にうれしかったこと、困っていること、話せる人がいますか。家族や地域でのつながりについて考えてみましょう！	16
第2分科会	“地域や近隣では何が起きているか” ～消費者被害、外国人、失業、高齢者の一人住まいなど～	21
第3分科会	まちづくりができるたすけあいの実践から ～東海の各地域での実践を持ち寄って～	20
第4分科会	協同組合地域社会の建設 ～レイドロー報告・南医療生協の実践から学ぶ	22
第5分科会	やってみよう！ 協同労働で 協同組合をチェンジ	19
分科会合計		98

第6回東海交流フォーラムでは、南医療生協とコープぎふでの実践を紹介いただく中で、地域で“協同っていいかも！”という思いが広がっており、なかなか見通しの持たないくらしや地域の状況の中で、協同組合があることで、組合員の力でつくることができるくらしと地域の未来・夢を描き合いました。

一方で、時代がどう動いているか、2009年度は食と農・環境パネル合同で哲学者の内山節先生を招いての“ワンコインおにぎりカフェ つながることは心地いい”を東海交流フォーラムのプレ企画として位置付け開催しました。また、全国の協同組合での取り組みについて“生協の(未来の)あり方公開研究会～創りたい生協運動の展望”で全国の生協の実践をお聞きする場もつくることができました。

第6回東海交流フォーラム



《東海交流フォーラムの感想から》

基調対談：格差社会、労働問題、高齢化社会、今の現状をみると、不安だらけ、だからこそ協同が重要になってくること、「協同っていいかも」が、実感として見えてきました。

第2分科会：事業としてやるのではなく、必要なことは自分たちでやるという事、そうすれば成功するという点になるほどと思いました。

**4. 会員による多様な研究センター活動**

(1) 会員がすすめる研究センター活動

①第2期研究奨励助成での調査・研究活動支援

2008年度応募があった13件について、研究奨励助成を実施し、2010年1月を報告の提出期限として支援してきました。2010年5月現在7グループ・個人が報告書を完成させ、6グループが報告書完了を目指し取り組んでいます。

②第3期研究奨励助成の準備

2010年度に第3期研究奨励助成を予定しましたが、2009年度は準備が十分にできず、実施を延期せざるを得ない状況となりました。

③地域のつどい・懇談会

三河地域の三河地域懇談会、三重地域の三重のつどいを開催しました。

**三河地域懇談会**

2009年9月26日(土)27日(日)「山のくらしに学ぶ」と題して、新城文化会館で第6回三河地域懇談会を開催し、オプションで初めての一泊企画に取り組みました。農業や林業の話、過疎化する地域で、つながりを深めながらくらす人々の営みにたくさんのことを学ばせていただきました。翌日の花祭り会館や千枚田の見学等への参加も含め56名の参加がありました。2010年度は食・農・環境・平和等をテーマに渥美半島で開催する相談もしてきました。

三河地域懇談会（初めての一泊企画）



**三重のつどい**

2010年4月10日(土)に開催しました。基調講演では「どこへ行く 私たちの食生活 ～日本の食生活を変えてきたもの 変えていくもの～」を梅村郁子氏にお話しいただき、その後分散会で交流しました。2010年度は福祉をテーマに開催することを相談してきました。

④研修活動の支援、委員会への対応

あいちの新しい生協福祉政策検討推進委員会への協力、厚労省愛知労働局委託事業「平成21年度介護雇用管理改善推進委託事業」に関するあいち在宅福祉懇への協力をすすめてきました。

(2) 会員の自主的な研究活動

①社会的企業勉強会

2009年6月24日(水) NPO法人ボランタリーネイバーズ理事長大西光夫氏から、「社会的企業の動向をどう見るか社会的企業とは何か」をテーマにお話しいただき、意見交流しました。

②ものづくりの思いを語る会

2009年4月21日(火) 中央製乳にて開催し、工場を見学させていただき、会社の概要について紹介いただき、みかわ市民生協の八木理事長(当時)からは、提携の歴史についてお話しいただきました。

2010年2月8日(月) 三昌物産にて、工場を見学させていただき、グループの概要について紹介いただきました。

**5. 協同組合組織、地域・市民の組織とのネットワーク**

地域と協同の研究センターと同様に、地域における協同や協同組合についての調査・研究、研修・交流などをすすめる組織との連携した取り組みを模索してきました。

東海の地域で、食と農に関わり幅広いネットワーク組織を目指す「とうかい食農健サポートクラブ」との連携を強めてきました。

**6. 研究センターの組織強化**

(1) ありたい研究センターの探求

年間を通じ、「地域と協同の研究センターの役割と組織運営」をテーマに、ありたい研究センターについて理事会・常任理事会で考え合ってきました。

(2) 会員加入を広げて

上記の事業活動の報告のように、会員・生協、地域のみなさんの参加の場を広げ、研究センターを知る機会を広げる中で、研究センターの役立ちを実感いただき、加入を広げてきました。

**6. 研究センターNEWS (ニュース各号の主な記事)**

	巻頭エッセー	パネル発・地域発・会員発の発信		情報ファイル
83号 09/4/25	歴史から学び、先人の理念・哲学・知恵から学ぼう みかわ市民生協理事長 八木 憲一郎	第5回東海交流フォーラム 基調講演 「食糧問題から見る日本と世界 そして私たちの暮らし」 NHK解説委員 合瀬 宏毅		第1 暮らしの中で見えてくること 第2 暮らしを支える地域の中で見えてくること 第3 県や東海のつながりの中で発見する暮らしの背景 第4 食と農と暮らしから見る日本と世界が向かう先 第5 協同をつくる人と仕事の意味、価値を発見する
84号 08/6/25	「脳科学」と「ニューロマーケティング」のこと 東海共同印刷株式会社 代表取締役 林 則明	「食料・農業政策に生かしたい東海の生協の実践と見解」 ワーキンググループ 報告	「あいちの新しい生協で創る私たちの協同組合福祉」 みかわ市民生協・めいきん生協福祉政策検討委員会	共同労働の協同組合法制化、いよいよ実現へあと一歩 法制化議員連盟の法律案概要まとまる 児童のいる家庭の生活の厳しさ顕著 厚生労働省平成20年国民生活基礎調査
85号 08/8/25	「風土」について考える 名古屋勤労市民生活協同組合 寺本 康美	第9回通常総会記念シンポジウム 「いま歴史に学び 協同組合の未来を拓く」 基調講演「イギリスの生協の再生に学ぶ ～社会的存在意義を訴える事業展開とか?」 杉本 貴志(関西大学商学部)		コープみえエコファミリーの活動 夏休みコープ小幡 寺小屋2009 三河地域懇談会発 みんな、おいでん! 奥三河へ
86号 08/10/25	医療生協の全国連合会づくりにあたって 北医療生活協同組合 専務理事 田島 明	みかわ市民生協の福祉を学ぶ 地域福祉を支える市民協同パネル報告	コープみやぎの松田さんと一緒に、生協職員の仕事について考え合いました!	食と農パネル世話人会 視察報告 福井からのメッセージ 日本での貧困化の動向を反映 日本での相対的貧困率を政府、公表
87号 08/12/25	厳しいときだからこそ、前向きに誇りを持って 生活協同組合コープぎふ 専務理事 佐藤 圭三	三河地域懇談会開催レポート 山の暮らしに学ぶ めいきん生協「暮らしの実態調査」報告会	「東南・東アジア ビア・カンパシーナ女性交流会inバン格拉デッシュ」 レポート	農家・農協は今 転換期における農家と農協の動きを現場で探る 高齢世帯は、2020年以降に全都道府県で30%を上回る 国立社会保障人口問題研究所「日本のせ第数の将来推計」
88号 09/2/25	協同組合間協同により「健康で安心なまちづくり」を一般社団法人協働・夢プロジェクト設立にあたって 大学生協東海事業連合 専務理事 加藤 和広	内山節先生のワンコインおにぎりカフェ 開催レポート つながることは心地いい♡	地域福祉を支える市民協同パネルレポート 社会福祉法人なごや平和福祉会・見学会	NPO法人仕事工房ポロコとコープぎふの福祉活動助成基金から学ぶ 一般社団法人設立数 2000法人を突破

### Ⅲ 組織・機関運営のまとめ

#### 1. 第9回通常総会を、2009年7月4日（土）に、生協生活文化会館で開催しました。

出席状況は、次の通りでした。

	出席者	実出席	委任	書面表決	会員数
個人会員	138	57	1	80	216
団体会員	14	8	0	6	18
合計	152	65	1	86	234



各議案の採決結果は下表の通りでした。

過半数の賛成で、2008年度事業報告と決算承認の件（第1号議案）は承認され、2009年度事業計画と予算決定の件（第2号議案）も提案通り決定されました。

第3号議案の理事・監事の選出について、理事会からの推薦者33名の理事の立候補と、3名の監事の立候補があり、投票の結果、過半数の信任をもって選出されました。

#### <議案毎の採決結果>

	議案	賛成	反対	保留
第1号議案	2008年度事業報告と決算承認の件	145	0	1
第2号議案	2009年度事業計画と予算決定の件	144	0	2

#### 2. 理事会の開催

2009年度、下表の通り理事会を開催しました。

	回数	開催日	主な議題
08 年 度	第5回	5/30	第9回通常総会の準備について、第9回通常総会議案について、総会記念シンポジウムについて、地域と協同の研究センターの役割と組織運営について、生物多様性条約市民ネットへの参加依頼について
	第1回	7/4	2009年度の役員体制について、2009年度理事会の日程について
	第2回	8/29	第9回通常総会の振り返り、総会記念シンポジウムの振り返り、第6回東海交流フォーラムの開催について、地域と協同の研究センターの役割と組織運営について
	第3回	10/10	第6回東海交流フォーラムの準備、実行委員会の開催、第6回東海交流フォーラムの内容 地域と協同の研究センターの役割と組織運営について
	第4回	12/5	第6回東海交流フォーラムの企画、地域と協同の研究センターの役割と組織運営について、上半期の収支報告と2009年度収支予測について
09 年 度	第5回	2/27	第6回東海交流フォーラムの企画について、2009年度のまとめと2010年度計画について、地域と協同の研究センターの役割と組織運営について①2010年度の仕組み ②役員改選に関わって

常任理事会は、2009年度、次の通り開催しました。

2008年度第10回(4/27)、第11回(5/22)、第12回(6/22)、2009年度第1回(7/27)、第2回(8/21)、第3回(10/5)、第4回(10/29)、第5回(11/24)、第6回(1/5)、第7回(1/28)、第8回(2/12)、第9回(3/17)の計12回。

### 3. 会員組織

会員の異動は次の通りで、2009年度末の会員数は、正会員個人223人・団体18団体、賛助会員個人67人・団体2団体となりました。

(2010年3月20日現在)

	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
期首会員	217	18	68	2
加入	11	0	2	0
脱退	6	0	2	0
移行	1	0	▲1	0
期末会員	223	18	67	2

### 4. 法人としての行政への対応など

- ①特定非営利活動促進法に基づき、2008年度事業報告書を愛知県に提出しました(2009/9/30)。
- ②役員選出に伴い役員変更登記を行い、あわせて愛知県に役員改選届けを提出しました(2009/9/30)。
- ③2008年度決算にもとづき税務申告を行い、平成20年度分の納税を行いました。納税額は次の通りでした。
 

国税	法人税	0円(課税対象となる事業所得への課税税率22%、赤字決算のため0)
地方税	県民税	20,000円(法人税の5%+均等割2万円)
	事業税	0円(所得金額の5%、赤字決算のため0)
	市民税	50,000円(法人税の12.3%+均等割5万円)
	消費税	325,800円(2007年度より、納税義務者となりました。)

※特定非営利活動法人ではありますが、税法上の収益事業により発生した所得については課税されます。

## IV 2009年度決算報告

### 1. 決算の概要

会費収入2,250万円(正会費175万円、賛助会費11万円、維持会費が2008年度から516万円減額で2,064万円)となり、対応する運営費、管理費での支出を2,624万円(2008年度比227万円減)としましたが、収支差額で373万円の不足となりました。2008年度まではこの部分を、事業収入・その他収入の収支差額で補填しバランスをとってきましたが、2009年度は事業収入でも、予算を大きく割れ込み、これまでの繰越金から450万円を取り崩し、補填させていただきます。

### 2009年度収支バランス

(単位 千円、端数切り捨てで表示しています)

収入の部		支出の部		収支差額	
	前期繰越金	18,498			
経常収支	会費収入 (うち維持会費)	22,506 (20,640)	運営費 管理費	794 25,449	△3,737
	事業収入 (うち収益事業収入)	19,472 (14,972)	事業費	16,425	3,047
	(うち研究事業準備金取り崩し)	4,500	(うち調査・研究事業費)	(1,960)	(△1,453)
	その他収入	822			822
	当期収入計	42,801	当期支出計	42,669	132

財務状況は、資産合計額が15,509,457円となりました。内96.3%が現金・預金です。また、資産の内未収金の475,823円は、年度末に実施した事業より発生したものです。流動負債の内78.9%が未払金で、他は2009年度の事業結果に対する法人税、消費税です。

2008年度まで固定資産として計上してきました備品関係につきましては、実態に合わせて経理処理するため、2009年度末で全額を減価償却処理し、残額を0としました。

これにより2009年度の繰越金は、2008年度の繰越金18,498,438円から4,916,334円減らし、13,582,103円となりました。

## 2. 2009年度決算書

2009年度の貸借対照表・収支計算書・財産目録は、次の通りです。

### 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター 貸借対照表

2010年3月20日現在

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金・預金			
小口現金	187,005		
普通預金	9,879,160		
郵便振替口座	4,967,469		
		15,033,634	
未収金		475,823	
仮払消費税		0	
流動資産合計			15,509,457
<b>2 固定資産</b>			
什器備品		0	
ソフトウェア		0	
固定資産合計			0
<b>資産合計</b>			15,509,457
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
未払金		1,522,354	
未払法人税		70,000	
未払消費税		335,000	
流動負債合計			1,927,354
<b>2 固定負債</b>			
長期借入金		0	
退職給与引当金		0	
固定負債合計		0	
<b>負債合計</b>			1,927,354
<b>III 正財産の部</b>			
<b>1 期首正味財産</b>		18,498,438	
<b>2 当期正味財産増減額</b>		-4,916,335	
<b>正味財産合計</b>			13,582,103
<b>負債及び正味財産合計</b>			15,509,457

地域と協同の研究センター2009年度収支報告 (単位 円)

2009年3月21日～2010年3月20日

	2009年度実績	2009年度予算	予算比	2008年度	前年比	コメント
<b>I. 経常収支の部</b>						
1. 会費収入	22,506,000	22,670,000	99.3%	27,507,000	81.8%	
1)個人会費	645,000	720,000	89.6%	556,500	115.9%	
2)団体会費	1,110,000	1,170,000	94.9%	1,020,000	108.8%	
3)賛助会費	111,000	140,000	79.3%	130,500	85.1%	
4)維持会費	20,640,000	20,640,000	100.0%	25,800,000	80.0%	維持会費20%削減
2. 事業収入	19,472,756	20,400,000	95.5%	13,127,123	148.3%	
1)学習・研修支援事業収入	3,921,104	4,850,000	80.8%	4,656,821	84.2%	
学びと気づき支援収入	3,715,056	4,800,000	77.4%	4,593,591	80.9%	
学習・交流支援収入	206,048	50,000	412.1%	63,230	325.9%	地域つどい参加費等
2)主催事業収入	10,100,607	12,250,000	82.5%	6,296,670	160.4%	
学習・研修事業収入	9,875,054	12,200,000	80.9%	6,263,811	157.7%	カレッジ、マネジメント、マスターコース、
調査・研究事業収入	225,553	50,000	451.1%	32,859	686.4%	東海交流フォーラム・研究会等の参加費
3)受託事業収入	825,254	1,000,000	82.5%	95,438	864.7%	
受託研修収入	0	500,000	0.0%	90,676	0.0%	
受託調査・研究収入	825,254	500,000	165.1%	4,762	17330.0%	福祉政策推進検討委員会、あいち在宅福祉懇等
4)情報サービス事業収入	125,791	300,000	41.9%	78,194	160.9%	報告書販売等
5)研究事業準備金取崩	4,500,000	2,000,000	225.0%	2,000,000	225.0%	
3. その他収入	822,766	875,000	94.0%	1,370,327	60.0%	
1)寄付金・協賛金	778,480	850,000	91.6%	1,345,728	57.8%	
2)受取利息	2,615	15,000	17.4%	15,075	17.3%	
3)雑収入	41,671	10,000	416.7%	9,524	437.5%	
経常収入合計(a)	42,801,522	43,945,000	97.4%	42,004,450	101.9%	
<b>II. 経常支出の部</b>						
1. 事業費	16,425,991	18,275,240	89.9%	11,853,443	138.6%	
1)学習・交流支援事業費	2,336,582	2,500,000	93.5%	2,362,885	98.9%	
学びと気づき支援費	1,921,789	2,200,000	87.4%	2,102,111	91.4%	学びと気づきの支援経費
学習交流支援費	414,793	300,000	138.3%	260,774	159.1%	地域つどい、懇談会費用
2)主催事業費	12,147,178	13,975,240	86.9%	8,162,191	148.8%	
学習・研修事業費	10,129,944	11,380,000	89.0%	6,319,958	160.3%	カレッジ、マネジメント、マスターコース経費、研修参加助成、
調査・研究事業費	1,960,091	2,500,000	78.4%	1,193,927	164.2%	パネル、研究会、東海交流フォーラム
奨励研究事業費	57,143	95,240	60.0%	648,306	8.8%	奨励研究事業費
資料・調査活動費	0	0	0.0%	0	0.0%	
3)受託事業費	835,607	500,000	167.1%	275,466	303.3%	
受託研修費	107,241	300,000	35.7%	66,339	161.7%	組合員理事の学びの場世話人会等
受託調査・研究費	728,366	200,000	364.2%	209,127	348.3%	
4)情報サービス事業費	1,106,024	1,300,000	85.1%	1,052,901	105.0%	
研究センターニュース発行費	651,452	700,000	93.1%	696,501	93.5%	研究センターニュース等
研究誌・報告書制作費	298,572	300,000	99.5%	200,400	149.0%	パネル、奨励研究報告冊子費用
情報システム運用費	156,000	300,000	52.0%	156,000	100.0%	HP運営費
2. 運営費	794,089	800,000	99.3%	864,222	91.9%	
1)総会開催費	247,571	200,000	123.8%	200,465	123.5%	総会シホ、議案書費用
2)理事会等会議費	546,518	700,000	78.1%	663,757	82.3%	理事会・常任理事会、
3. 管理費	25,449,849	24,407,840	104.3%	27,659,676	92.0%	
1)役員報酬	0	0	0.0%	0	0.0%	
2)職員給与・賞与	15,653,249	15,200,000	103.0%	18,692,597	83.7%	事務局職員給与
3)通勤交通費●	408,406	400,000	102.1%	622,758	65.6%	事務局通勤交通費
4)法定福利費●	2,112,932	1,890,000	111.8%	2,331,667	90.6%	社会保険料
5)厚生費●	179,132	80,000	223.9%	85,681	209.1%	厚生費・安全運転教育費
6)業務委託費	3,078,008	2,832,840	108.7%	2,448,680	125.7%	事務局スタッフ業務委託費
7)委託通勤交通費●	926,887	800,000	115.9%	635,389	145.9%	委託スタッフ通勤費・交通費
8)事務用品費	695,321	300,000	231.8%	330,335	210.5%	用紙代、印刷代、ゼロックスリース代
9)備品費	105,276	20,000	526.4%	24,720	425.9%	プロジェクト、ICレコーダー等
10)研修調査費●	130,023	500,000	26.0%	515,155	25.2%	事務局員の研修・セミナー参加費
11)新聞図書費●	114,057	120,000	95.0%	119,198	95.7%	新聞・図書費、
12)広報費	142,500	300,000	47.5%	0	#DIV/0!	東海交流フォーラム報告集
13)通信交通費	526,055	410,000	128.3%	490,331	107.3%	電話代、郵送料、職員交通費など
14)施設・設備利用料	640,000	800,000	80.0%	640,001	100.0%	事務所賃借料
15)租税公課	644,041	620,000	103.9%	595,527	108.1%	消費税
16)会議費	1,572	60,000	2.6%	57,917	2.7%	
17)渉外費	30,810	25,000	123.2%	12,702	242.6%	諸会費
18)その他事務費	61,575	50,000	123.2%	57,018	108.0%	振込み手数料等
経常支出合計(b)	42,669,329	43,483,080	98.1%	40,377,341	105.7%	
経常収支差額(c)=(a)-(b)	132,193	461,920	28.6%	1,627,109	8.1%	
<b>III. その他資金収入の部</b>						
特別収入	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	0	0.0%	
<b>その他資金支出の部</b>						
特別支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
調査研究費繰り入れ額	4,500,000	2,000,000	225.0%	2,000,000	225.0%	繰越金から調査研究費に繰入
未払税金等繰入	70,000	70,000	100.0%	70,000	100.0%	2008年度分税金
什器備品購入支出	0	290,000	0.0%	264,945	0.0%	
ソフトウェア購入支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	4,570,000	2,360,000	193.6%	2,334,945	195.7%	
その他資金収支差額(f)=(d)-(e)	-4,570,000	-2,360,000	193.6%	-2,334,945	195.7%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	-4,437,807	-1,898,080	233.8%	-707,836	627.0%	
<b>IV. 正味財産増加の部</b>						
什器備品購入額	0	290,000	0.0%	264,945	0.0%	
ソフトウェア購入額	0	0	0.0%	0	0.0%	
正味財産増加の部 合計	0	290,000	0.0%	264,945	0.0%	
<b>正味財産減少の部</b>						
什器備品減価償却額	286,528	325,000	88.2%	202,419	141.6%	
ソフトウェア減価償却額	192,000	64,000	300.0%	64,000	300.0%	
正味財産減少の部 合計	478,528	389,000	123.0%	266,419	179.6%	
当期正味財産増加額	-4,916,335	-1,997,080	246.2%	-709,310	693.1%	
前年度繰越金	18,498,438	18,498,438	100.0%	19,207,748	96.3%	
次期繰越収支差額	13,582,103	16,501,358	82.3%	18,498,438	73.4%	

**特定非営利活動法人地域と協同の研究センター 財産目録**

2010年3月20日現在 単位・円

科目	内 訳	金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金 現金	現金手元有高	187,005	
普通預金	三菱東京UJF銀行藤ヶ丘支店	9,879,160	
郵便振替	会費振込口座	4,967,469	
			15,033,634
未収金	学びの支援事業費 /4生協	475,823	
仮払消費税		0	
			475,823
流動資産合計			15,509,457
2 固定資産	什器備品		0
	ソフトウェア		0
固定資産合計			0
資産合計			15,509,457
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
短期借入金		0	
前受金		0	
前受会費		0	
未払金	めいきん生協立替3月給与	1,075,751	
	事務局スタッフ3名(業務委託費3月分)	268,410	
	東海コープ事業連合インターネット使用料	26,250	
	ヤマト運輸 宅配料	32,655	
	東海共同印刷 印刷代	39,900	
	理想科学 用紙代	14,647	
	コープみえ立替 集い交通費	11,920	
	会場費 れあろ	42,000	
	3月NTT使用料	6,859	
	3月ニフティ利用料	3,832	
	後納郵便料	130	
			1,522,354
預り金	源泉所得税、他	0	0
未払法人税	未払法人税	70,000	70,000
仮受消費税	未払消費税	335,000	335,000
流動負債合計			1,927,354
2 固定負債			
長期借入金			0
退職給与引当金			0
固定負債合計			0
負債合計			1,927,354
<b>III 正味財産</b>			
期首正味財産			18,498,438
当期正味財産増加額			-4,916,335
正味財産合計			13,582,103
			15,509,457

<b>V 監査報告 (総会当日配布)</b>
------------------------

以上、2009年度事業報告、決算報告とします。

2010年5月29日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事	川崎 直巳	(コープぎふ理事長)
常任理事	向井 忍	(コープあいち常務理事・常任理事会議長)
	磯村 隆樹	(コープあいち常務理事)
	小木曾 洋司	(中京大学現代社会学部准教授)
	河原 洋之	(コープぎふ常務理事)
	野村 真弘	(コープみえ常務理事)
理事	朝倉 美江	(金城学院大学現代文化学部教授)
	有本 信昭	(岐阜大学地域科学部教授)
	井関 道夫	(コープあいち理事)
	伊藤 佐記子	(コープぎふ組合員)
	岩田 妙子	(コープぎふ理事)
	大谷 光一	(全国大学生協連合会東海地域センター事務局長)
	岡田 祐成	(社会福祉法人なごや平和福祉会理事・施設長)
	鎌田 秀子	(コープぎふ理事)
	斎藤 勲	(東海コープ事業連合商品安全検査センター長)
	猿木 律子	(コープみえ理事)
	杉浦 玄光	(農業・農協問題研究所三重支部世話人)
	田邊 準也	(日本生協連顧問)
	仲田 伸輝	(社会福祉法人名南子どもの家理事)
	八田 淳	(コープあいち理事)
	成瀬 幸雄	(南医療生協専務理事)
	野田 妙子	(コープあいち理事)
	野田 輝己	(農業経営)
	平野 哲至	(会社コンサルタント)
	堀 正子	(コープあいち理事)
	村上 一彦	(農協役員)
	山口 直子	(コープあいち理事)
	幸松 孝太郎	(コープみえ理事)
	吉田 濱一	(農協役員)
	若井 和則	(生協労連東海地連書記長)
	兼子 厚之	(コープあいち職員)
	橋本 吉広	(コープあいち職員)
事務局長	大島 三津夫	(コープあいち職員)

## 第2号議案 2010年度事業計画と報告と予算決定の件

### 1. 2010年度の目標

2010年度は、地域と協同の研究センター設立15周年、NPO法人化10周年の年度でもあり、区切りとして地域と協同の研究センターの存在価値を、参加する会員・市民にとって明確なものになるよう年度の目標を持ちます。このような年度として2008年度に中期目標として確認した、地域と協同の研究センターが2010年度なっていたい姿は下記のような内容でした。

- ①会員の主体的な参加で協同組合の課題を探り、協同組合の可能性と展望を見通すことができる研究センター
- ②会員・市民・研究者の多彩な参加で地域での協同の経験を多彩に情報交流できる研究センター
- ③研究センターでの成果は、研究センターNEWS、レポート、報告集、研究誌などで蓄積され、社会的にも認められる研究センター

2010年度は、この3ヶ年の中期目標を掲げた最終年度として、2009年度までの取り組みの成果と到達点の上に、この中期目標として掲げた内容の実現を目指します。

そのために、これまでの成果と到達点の上に立って、会員・生協、協同組合組織、市民団体組織と連携しながら具体的に、次のようなことに取り組みます。①「生協の(未来の)あり方研究会」では、さらにテーマに接近するよう共同研究をすすめ、その成果が見える公開研究会の場も準備します。②4つのパネルの場は、2009年度の新しい広がりから、2010年度、会員・市民・研究者の参加をさらに広げ、深め合う場を模索してきます。③2009年度始めた共同購入事業マイスターコースは継続し、新たに準備してきた組合員理事ゼミナールを2010年度開講し、研究センターでの経験の蓄積を広げ、さらに、より多くの会員・市民にとって協同組合を学び合う場を模索します。④地域と協同の研究センターは、中期目標実現を目指す中、会員・市民にとって着実に役割を広げ、参加を広げてきました。しかし2009年度までは、会員の加入も、目標とした規模まで、進めることができませんでした。財政的な基盤をつくっていくためにも、会員加入に目標を持って取り組みます。

このように地域と協同の研究センターがつくる場をさらに深め、広げながら、多彩な協同の経験を交流を重ね、「つながり」「つながる」ことで見えてくることを、お互いに明らかにしながら、参加する一人ひとりが、協同組合がある社会の可能性と展望を考え合い、学び合い、実感していくことを目標とします。

目標実現のための取り組みとして、以下の4つのことを2010年度計画の重点と位置付けます。

#### ①記念事業

2010年度に向け、地域と協同の研究センターで準備してきた具体的な計画を順次進め、その象徴として、第7回東海交流フォーラムを設立15周年・NPO法人化10周年の記念企画として位置付け、地域と協同の研究センターにつどう会員・市民の成果を表現するものとして準備します。

#### ②協同組合大学の準備

この間、市民・会員のみなさんからいただいた、生協や他の協同組合はもちろんのこと、NPOやその他の任意で市民がつくる協同組織等の方々の学びの思いに応える場を準備していきます。

#### ③研究誌(紀要)の発行準備

会員・市民・研究者の、地域での多彩な地域での経験・情報の交流をめざし、プラットフォーム機能を継承しながらパネルの新しい段階での展開を考え合い、社会的にも認められる情報発信を模索していきます。そして、会員・市民・研究者の参加する研究センターにふさわしい研究誌の発行を模索していきます。

#### ④会員拡大

こうした取り組みの中で、会員のお誘いを独自に進め、広げていきます。

## II 2010年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

### (1) 生協の(未来の)あり方研究会

テーマに接近する共同研究の年度として、①テーマに関わる情報と知見の収集、②知見の検証、③研究集会の開催を計画し、研究バクトルの掘り下げと検証をすすめていきます。

### (2) 協同の主体づくり 学びと気づきの支援

#### ①ポストコープ・カレッジの取り組み

2010年度は、これまでのコープ・カレッジ卒業生を対象に、修了後の経験を交流し合いながら、これか

らのあり方を探るイノベーション研究会（仮称）の開催を計画します。

②共同購入事業マイスターコース

第1期では19人のマイスターが生まれました。2010年度は第2期の共同購入事業マイスターコースを開講します。また、第1期の卒業生の交流の場もつくり、それぞれの生協でのマイスターの取り組みを支援していきます。

③組合員理事ゼミナールの開講

2009年度「組合員理事の考え合い、学び合う場」づくり世話人会で準備してきた学び合いの場を、2010年度7月組合員ゼミナールとして開講します

④協同組合大学等の準備

会員・生協や会員の方々の参加で、求められる場を検討し、2011年度以降に開講できるよう相談し、準備していく場をつくります。

(3) 協同で支える領域別での探求

①4つのパネル

それぞれのパネルの場が、東海の地域における情報を持ち寄り、交流し、課題を一緒に考える大切な場になっています。その基本を継続しながら、それぞれのパネルで相談してきた2010年度の計画について、それぞれの世話人会で相談し、すすめていきます。

**食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル**

2009年度取り組んだ福井調査や内山節先生のワンコインおにぎりカフェを活かし、引き続き農の現場に学びます。農の現場と日々の食（暮らし）を結ぶ協同の営みについて考え合い、交流を深め、テーマを深めていきます。

**地域福祉を支える市民協同パネル**

2009年度調査してきたこと等をもとに、地域福祉を支える市民協同パネルとして、高齢者福祉に関わって、地域で生まれてきている生活問題や、当事者が解決しなければいけない課題に、協同組合や協同組織がどう関与できるか、問題提起や実践に生かせるエッセンスを紹介できるよう準備していきます。

**組合員と職員の接点（研究フォーラム職員の仕事を考える）**

これまですすめてきた地域担当からのヒアリングを基にしながら、東海の3生協で地域担当のみなさんを対象にアンケート調査を実施し、結果を世話人会でまとめていきます。また「地域担当の仕事を考える研究会」を、2010年度は東海の生協で働く地域担当の事例をテーマに開催します。

**環境（自然の環 人の輪）**

2009年度まで、各地域で取り組んでいる環境に関わる活動について、お互いに知り合えるよう情報交流を重ねてきました。2010年度はその力も元に、調査・交流を継続しながら、それぞれの地域での取り組みを協同で行うことも考え合っていきます。

②総会記念シンポジウム（15周年、10周年記念事業）

第6回東海交流フォーラムでは南医療生協成瀬専務とコープぎふ川崎理事長から報告いただき、協同組合の実践交流を行いました。第10回総会記念シンポジウムでは、東海の生協のテーマや課題とされていること、地域が今抱えている課題、生協以外の立場から見た協同組合について、実践の交流をさらに深めます。

③第7回東海交流フォーラム（15周年、10周年記念事業）

総会シンポジウムで提起いただいたこと、意見交流したことを土台に、さらに実践交流を深める内容で、第7回東海交流フォーラムを準備し開催します。

(4) 会員による多様な研究センター活動

①会員がすすめる研究センター活動

第2期研究奨励助成に取り組んでいただいたみなさんの報告をまとめ、報告集を発行します。

第3期研究奨励助成事業は、2010年度行いません。今後については、2回の取り組みを振り返り、予算上の対策も含め、2010年度検討していきます。

②地域のつどい・懇談会

2010年度は三重、三河、岐阜の3地域で、地域の懇談会・つどいを検討し準備します。

- ・三重のつどい：三重地域の会員に呼びかけ、相談会を持ち、2010年度は「福祉」をテーマに取り組みます。
- ・みかわ地域懇談会：渥美半島でのくらしの交流を目的に、農業、環境、平和などをテーマとし、交流する場をつくります。またオプション企画として、渥美半島でのくらしや、テーマに沿った見学を計画します。
- ・岐阜のつどい：2010年度、岐阜地域での研究センターのつどい開催を、岐阜地域の会員のみなさんで相談します。

③会員の自主的な研究活動

引き続き、地域と協同の研究センターとして、社会的企業勉強会、ものづくりの思いを語る会開催等、会員の自主的な研究活動について支援していきます。

④受託事業・支援事業

コープあいちくらし調査：前回実施（当時めいきん生協）より2年が経過しますので、実施を相談します。他、地域と協同の研究センターへの委託事業について、依頼があればひとつひとつ検討し、可能な限り受託していきます。

(5) 研究センターの組織強化

2010年度は、中期目標の最終年度として、掲げた目標を実現しながら、引き続きありたい研究センターを探求していく中で、次期中期目標（2011年度からの3ヶ年計画）を準備します。

①次期中期目標（2011年度からの3ヶ年計画）を2011年度に向け準備します。

2008年度から、ありたい研究センターを探求し、理事会・常任理事会で「地域と協同の研究センターの役割と組織運営」について継続して検討してきました。2010年度、引き続き理事会・常任理事会で検討をつづけながら、次期中期目標としてまとめていけるようにします。

②研究誌（紀要）の発行を準備します。

地域と協同の研究センターにふさわしい情報発信のあり方について、これまでの研究センターNEWS、情報クリップ、ホームページでの発信も含め、相談する場をつくりながら、今後実現できるよう研究誌（紀要）の発行を検討します。

③会員加入のお誘いを広げ、会員を増やします。

会員加入について、下記の目標を持ち、取り組んでいきます。

会員お誘い目標 個人（正 50人・賛助 20人）  
 団体（正 3団体）

### 3. 2010年度予算

#### 地域と協同の研究センター2010年度予算 (単位 円)

2010年3月21日～2011年3月20日

	2010年度予算	2009年度実績	2009年度比	予算の指標
<b>I. 経常収支の部</b>				
1. 会費収入	20,210,000	22,506,000	89.8%	
1) 個人会費	800,000	645,000	124.0%	会員50人増目標
2) 団体会費	1,200,000	1,110,000	108.1%	団体会員3団体増目標
3) 賛助会費	150,000	111,000	135.1%	賛助会員20人増目標
4) 維持会費	18,060,000	20,640,000	87.5%	
2. 事業収入	10,375,000	19,473,256	53.3%	
1) 学習・研修支援事業収入	3,850,000	3,921,104	98.2%	
学びと気づき支援収入	3,750,000	3,715,056	100.9%	学びと気づきの支援(参考:2009年度実績)
学習・交流支援収入	100,000	206,048	48.5%	地域つどい・懇談会参加費等
2) 主催事業収入	5,475,000	10,100,607	54.2%	
学習・研修事業収入	5,075,000	9,875,054	51.4%	マスターコース、組合員理事学びの場
調査・研究事業収入	400,000	225,553	177.3%	東海交流フォーラム・研究会等の参加費
3) 受託事業収入	850,000	825,254	103.0%	
受託研修収入	50,000	0	0.0%	講師紹介等
受託調査・研究収入	800,000	825,254	96.9%	くらし調査、他団体資料作成等
4) 情報サービス事業収入	200,000	125,791	159.0%	書籍・報告書販売代金等
5) 研究事業準備金取崩	0	4,500,000	0.0%	2010年度は行わない計画
3. その他収入	791,457	822,766	96.2%	
1) 寄付金・協賛金	780,000	778,480	100.2%	
2) 受取利息	1,457	2,615	55.7%	
3) 雑収入	10,000	41,671	24.0%	
経常収入合計(a)	31,376,457	42,801,522	73.3%	
<b>II. 経常支出の部</b>				
1. 事業費	7,759,000	16,425,391	47.2%	
1) 学習・交流支援事業費	2,250,000	2,336,582	96.3%	
学びと気づき支援費	1,950,000	1,921,789	101.5%	学びと気づきの支援経費
学習交流支援費	300,000	414,793	72.3%	地域つどい・懇談会費用
2) 主催事業費	4,173,000	12,147,178	34.4%	
学習・研修事業費	2,173,000	10,129,944	21.5%	マスター経費、組合員理事ゼミ、研修助成、
調査・研究事業費	2,000,000	1,960,091	102.0%	パネル、研究会、東海交流フォーラム
奨励研究事業費	0	57,143	0.0%	第3期奨励研究を2010年度は行わない
資料・調査活動費	0	0	0.0%	管理費の新聞図書費と研修調査費で計上、科目削除の予定
3) 受託事業費	180,000	835,607	21.5%	
受託研修費	30,000	107,241	28.0%	受託研修会・セミナーなど費用
受託調査・研究費	150,000	728,366	20.6%	くらし調査
4) 情報サービス事業費	1,156,000	1,106,024	104.5%	
研究センターニュース発行費	700,000	651,452	107.5%	研究センターニュース等
研究誌・報告書制作費	300,000	298,572	100.5%	パネル、奨励研究報告冊子費用
情報システム運用費	156,000	156,000	100.0%	HP運営費
2. 運営費	770,000	794,089	97.0%	
1) 総会開催費	220,000	247,571	88.9%	総会シボ・議案書費用
2) 理事会等会議費	550,000	546,518	100.6%	理事会・常任理事会、
3. 管理費	22,739,140	25,450,049	89.3%	
1) 役員報酬	0	0	0.0%	
2) 職員給与・賞与	13,550,000	15,653,249	86.6%	事務局職員給与
3) 通勤交通費	400,000	408,406	97.9%	事務局通勤交通費
4) 法定福利費	1,856,000	2,112,932	87.8%	社会保険料
5) 厚生費	90,000	179,132	50.2%	厚生費・安全運転教育費
6) 業務委託費	2,832,840	3,078,008	92.0%	事務局スタッフ業務委託費
7) 委託通勤交通費	870,000	926,887	93.9%	スタッフ通勤費
8) 事務用品費	600,000	695,321	86.3%	用紙代、印刷代、ゼロックスリース代
9) 備品費	320,000	105,276	304.0%	パソコン購入2台
10) 研修調査費	200,000	130,028	153.8%	事務局員の研修・セミナー参加費
11) 新聞図書費	100,000	114,057	87.7%	新聞・図書費、
12) 広報費	150,000	142,500	105.3%	東海交流フォーラム報告集
13) 通信交通費	489,000	526,055	93.0%	電話代、郵送料、交通費など
14) 施設・設備利用料	640,000	640,000	100.0%	事務所賃借料
15) 租税公課	550,000	644,041	85.4%	事業収入の減少から
16) 会議費	0	1,572	0.0%	
17) 渉外費	30,000	30,810	97.4%	諸会費
18) その他事務費	61,300	61,575	99.6%	印刷・振込み手数料
経常支出合計(b)	31,268,140	42,669,329	73.3%	
経常収支差額(c)=(a)-(b)	108,317	132,193	81.9%	
<b>III. その他資金収入の部</b>				
特別収入	0	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	
<b>その他資金支出の部</b>				
特別支出	0	0	0.0%	
調査研究費繰り入れ額	0	4,500,000	0.0%	繰越金から調査研究費に繰入、2010年度は行わない計画
未払税金等繰入	70,000	70,000	100.0%	2009年度分税金
什器備品購入支出	0	0	0.0%	
ソフトウェア購入支出	0	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	70,000	4,570,000	1.5%	
その他資金収支差額(f)=(d)-(e)	-70,000	-4,570,000	1.5%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	38,317	-4,437,807	-0.9%	
<b>IV. 正味財産増加の部</b>				
什器備品購入額	0	0	0.0%	パソコン購入予定は備品費で計上
ソフトウェア購入額	0	0	0.0%	
正味財産増加の部 合計	0	0	0.0%	
<b>正味財産減少の部</b>				
什器備品減価償却額	0	286,528	0.0%	
ソフトウェア減価償却額	0	192,000	0.0%	
正味財産減少の部 合計	0	478,528	0.0%	
当期正味財産増加額	0	-4,916,335	0.0%	
前年度繰越金	13,582,103	18,498,438	73.4%	
次期繰越収支差額	13,620,420	13,582,103	100.3%	

### 第3号議案 定款変更の件

#### 1 定款第25条にもとづき、定款第14条2項、第16条2項、第17条2項6項を次の通り変更します。

※定款25条の内容 定款25条 総会は、以下の事項について議決する。

##### (1)定款の変更

変更案 (取り消し線の部分を削除し下線の部分を追加)	現 行
<p><b>第4章 役員等及び職員</b></p> <p>(役員の種別及び定数)</p> <p>第14条 この法人に、次の役員を置く。</p> <p>(1)理事 25人以上35人まで</p> <p>(2)監事 2人以上3人まで</p> <p>2 理事のうち、1人を代表理事、<u>1人を専務理事</u>、若干名を常任理事、<del>1人を研究センター長、2ないし3人を副センター長、1人を事務局長とする。</del></p> <p>(選出等)</p> <p>第16条 理事及び監事は、総会において選出する。理事及び監事の選出方法は、別に役員選出規約で定める。</p> <p>2 代表理事、<u>専務理事</u>、常任理事及び研究センター長、<del>副研究センター長、事務局長は、理事の互選とする。</del></p> <p>(職務)</p> <p>第17条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。</p> <p>2 <u>専務理事及び</u>常任理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるとき、又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。<u>専務理事及び</u>常任理事は、常任理事会を構成し、常任理事会は理事会が定める規程に基づき、法人の業務を執行する。</p> <p><del>6 研究センター長は、理事会の議決に基づき、この法人の研究活動を統括する。副研究センター長は、研究センター長を補佐し、研究センター長に事故あるとき、又は研究センター長が欠けたときは、研究センター長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。</del></p>	<p><b>第4章 役員等及び職員</b></p> <p>(役員の種別及び定数)</p> <p>第14条 この法人に、次の役員を置く。</p> <p>(1)理事 25人以上35人まで</p> <p>(2)監事 2人以上3人まで</p> <p>2 理事のうち、1人を代表理事、若干名を常任理事、1人を研究センター長、2ないし3人を副センター長、1人を事務局長とする。</p> <p>(選出等)</p> <p>第16条 理事及び監事は、総会において選出する。理事及び監事の選出方法は、別に役員選出規約で定める。</p> <p>2 代表理事、常任理事及び研究センター長、副研究センター長、事務局長は、理事の互選とする。</p> <p>(職務)</p> <p>第17条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。</p> <p>2 常任理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故あるとき、又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。常任理事は、常任理事会を構成し、常任理事会は理事会が定める規程に基づき、法人の業務を執行する。</p> <p>6 研究センター長は、理事会の議決に基づき、この法人の研究活動を統括する。副研究センター長は、研究センター長を補佐し、研究センター長に事故あるとき、又は研究センター長が欠けたときは、研究センター長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。</p>

#### <変更理由>

地域と協同の研究センターでは、2005年度から常任理事会を置き、その常任理事会が法人の定める業務を執行する仕組みをつくってまいりました。今回、地域と協同の研究センターの活動が広がる中で、常任理事の中で、より専断的に代表理事を補佐し事業をすすめる役割として専務理事を置きます。

また、当初より研究活動を統括するセンター長、副センター長を設けてきましたが、2005年の代表理事・常任理事による運営体制への変更にともないセンター長、副センター長は空席となっています。今後、研究センターの業務執行と研究活動の推進について、代表理事、専務理事、常任理事を含む常任理事会で一体的な推進をめざします。この方向での努力を前提に、実態に合わせ、定款上のセンター長・副センター長を定めた項目を削除します。

**2 定款第25条にもとづき、定款第18条を次の通り変更します。**

変更案 (取り消し線の部分を削除し下線の部分を追加)	現 行
<p>(任期等)                      第18条 役員等の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。                      2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。  <del>3 役員は、前二項の規定にかかわらず、後任者が選任されていない場合に限り、任期の末日後、最初の総会が終結するまで、その任期を伸長する。</del>  <b><u>3 役員は、その満了のときがそのときの属する事業年度の通常総会の終了のときと異なるときは、第1項の規定にかかわらず、その総会の終了のときまでとする。</u></b>  <b><u>4 役員が任期の満了又は辞任によって退任した場合において、役員の数その定数を欠くに至ったときは、その役員は、後任者が就任するまでの間は、なお役員としての権利義務を有するものとする。</u></b></p>	<p>(任期等)                      第18条 役員等の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。                      2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。                      3 役員は、前二項の規定にかかわらず、後任者が選任されていない場合に限り、任期の末日後、最初の総会が終結するまで、その任期を伸長する。</p>

<変更理由>

役員任期を、総会を区切りとするため、定款を変更します。

上記の定款変更は、愛知県知事の認証を得て効力が発生します。定款変更の認証申請手続きのなかで、議決の本旨に反しない範囲での字句修正が必要な場合、その修正を理事会に一任していただくことを併せて提案します。

**第4号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件**

第5期役員（2007年7月～2009年7月）の任期中ではありますが、理事会として改選時期の変更をしたいとの意図から、理事・監事全員の退任届が本総会の日程を期限として提出されました。よって定款第19条に基づき、遅滞なく補充することとし、また理事・監事全員の選出であることから、総会の日より任期を2年とする第6期の理事・監事として選出します。選出する役員定数は、定款第14条にもとづき理事35名、監事3名とします。役員任期は、2010年7月10日から2012年7月9日までの2年間です。各役員選出区及び定数は、次の通りとします。

理事：愛知地域 15名、岐阜地域 5名、三重地域 5名、全体枠 10名 以上 35名

監事：全体枠 3名

全体枠とは、県域を越えた連合組織所属者・研究センター運営担当者及び東海3県以外に在住する会員の選出枠です。

理事・監事の選出に当たり、役員選出規約第4条第2項にもとづき、立候補受付を公示します。理事・監事に立候補する方は、7月7日までに選出区を明らかにして、役員選出管理委員会に立候補の届け出を行ってください。

2010年通常総会役員選出管理委員会

## 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2009年度通常総会議事録

1. 日 時 2009年7月4日(土) 開会 10時30分 閉会 12時25分
2. 会 場 生協生活文化会館4階ホール
3. 出席者(議案採決時の出席数)

<内訳>

	出席者	実出席	委任	書面表決	正会員数	出席率
個人正会員	138	57	1	80	216	63.8%
団体正会員	14	8	0	6	18	77.7%
	152	65	1	86	234	64.9%

### 4. 審議事項

- (1) 第1号議案 2008年度事業報告と決算承認の件
- (2) 第2号議案 2009年度事業計画と予算決定の件
- (3) 第3号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件

### 5. 議事経過の概略及び議決の結果

#### (1) 開会

定刻となり司会者の野村真弘常任理事が、総会への出席者が開会時点で145名(実出席58名、書面表決者86名、委任1名)となり、7月4日現在の正会員234名の過半数に達していることを報告し、定款29条に基づき、2009年度通常総会を開会することを宣言した。

#### (2) 議長選出及び議事録署名人の選任と書記の任命

司会者が議長の選出方法について諮り、理事会から推薦することにつき異議なく承認されたので、理事会が推薦した井堀香理事、鎌田秀子理事を紹介し、満場一致をもってこれを承認し、本人も了解して議長についた。議長が議事録署名人に吉井弘和会員、天野真知子会員を提案し、異議なく選任された。つづいて議長は書記に研究センター事務局の伊藤小友美会員を任命した。

#### (3) 代表理事あいさつ

総会の開会にあたり、川崎直巳代表理事が、次のようなあいさつを行った。

この7月4日という日は、一年の丁度折り返しの日に当たりますが、会員・生協、各団体は、第1四半期に2009年度の計画を検討し、スタートダッシュについたというのが今の状況かと思います。研究センターでも、いろいろな場で検討してきましたことを全面的に実践し、厳しい状況、様々な課題はありますが、東海三県の地域で、協同の取り組みが、活発に展開され、少しでも多くの方に夢や希望、期待を持っていただけるような年度にできればと感じています。昨年の総会は7月5日に開催しましたが、まだ生協では、ギョーザ事故の様々な対応に追われている中であり、総会記念のシンポジウムでも、それにどう立ち向かうかテーマに基調講演をいただき、意見交換をしました。それ以後一年間、各分野で活発に取り組みが進められました。研究センターでも、皆様方に一年間様々な場でご活躍いただき、取り組みを進めていただき、みのりの多い一年だったと思います。

研究センターでは、4つのパネルで、様々なテーマの切り口を取りまとめ、地域での協同の活動の実践、研究活動のとりまとめをしながら、私たちが進めていきたい考え方・計画、実践の取り組みの進捗状況を交流しながら、研究を積み重ねています。今日の資料の中にも、取り組みの内容が紹介されております。

また、研究センターの様々な活動を通じて、いろいろな協同活動に関わる皆様の学び合う場、研究の場も、従来以上に展開しつつあります。例えば、生協職員の学習を応援する、無店舗事業の職員を対象とした「マイスターコース」です。継続して学んでいこうというカリキュラムを準備し、その場には20人を超える職員が参加し、始まりました。また非常勤の理事さんを対象に、学び合う場を持つと、相談を始めようとしています。このように、様々な形で、具体的に研究とか協同の活動を高めていくための取り組みができつつあると実感しています。

三つ目に、協同活動、協同の可能性について、今日も午後から「いま、歴史に学び 協同組合の未来を拓く」というテーマでシンポジウムを開催し、杉本先生に「イギリスにおける生協の再生に学ぶ」という内容の基調

講演を行っていただきます。生協の発祥の地であるイギリスの歴史と、私たちの今の状況とリンクさせて、可能性や、発展の力になるようなことを進めようということだと思います。東海コープグループでも、理念ビジョン原案を取りまとめ、今年それぞれの生協で検討し、グループとしての方向付けを明確にしていこうとしています。愛知では、めいきん生協・みかわ市民生協が10月に臨時総会を開き、2010年に新しい生協を誕生させようとしています。コープぎふでは、恵那市で今年新しい店舗を出店し、6月20日現在の数値で組合員が42%となっています。行政区単位で4割を越える組合員がいる地域が実現したのは初めてです。医療生協では新しい病院づくりが進められるなど、東海の地域では、協同の活動が広がり、可能性が広がっています。一方で、厳しい経済状態もあり、条件が違いますが、困難を乗り越え、新しい可能性をつくろうとしているイギリスの経験から学べるのが、大変タイムリーで、期待しています。私は5~6年前、日生協が主催した研修に参加し、イギリスの現場を見てきました。コンビニの業態を開発して、生協が取り組み始め、真正面から競争し、模索してみえたころでした。事業のこれからの見通しをつくっていくという意味でも、午後のシンポジウムに期待できると思います。協同組合の発展を考えると、今進めている実践を、ひとつひとつ大切にし、これを担う人を育てることが大切ではないかと思えます。研究センターの今日の総会や、これからの取り組みが、そういうことに少しでも貢献できることを願い、また皆様の全面的な関わりを期待し、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### (4) 議案の審議及び結果

続いて常任理事の向井忍から、議案書に基づき第1号議案2008年度事業報告、第2号議案2009年度事業計画について提案があり、大島事務局長から2008年度決算、2009年度予算について提案があった。次に石川美代子監事から監査報告書に基づき監査の報告をした。

次に大島三津夫事務局から、第3号議案理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件における顧問委嘱承認の件について、議案書に基づき提案した。向井忍常任理事からは、今回の改選では、1年後に退任し、役員選出のサイクルを変更することを理事会の申し送りとしている旨の報告があった。

理事会からの議案提案に基づき、会員からの質疑、意見発表が行われた。

幸孝太郎会員：維持会費20%削減は結構なことだと思います。2008年度の維持会費の内訳を教えてください。

堀正子会員：職員の仕事を考えるというパネルに参加してきました。2007年度から、組合員や職員の聞き取りをしながら地域担当者の仕事の意味や役割について考えてきました。今回世話人会のメンバーでこれまでのことをまとめ、「みえてきた 職員と組合員のいま」という報告集をつくりました。読んで気づいたことや意見を、ぜひお知らせいただきたいと思えます。生協職員の仕事を考える研究集会の案内があります。9月6日に、ワークライフプラザれあろで、コープみやぎの松田さんを囲んでお話を聞く会を持ちます。ぜひご参加ください。

井貝順子会員：食と農のパネルにいます。参加し、いろんな立場の人の話を聞いておもしろかった。私は農家の出身で、農作業を手伝い、嫌だなど思っていたのですが、食と農のパネルに来たら、農作業を、わざわざお金と時間を使ってやっている人がいることを知ったり、話を聞くといふことでわかってきたことがあります。先日田植えをやり、イモリを見てこういうのに会おうのいいことだと感じるようになりました。2009年度は、食と農のパネルで、秋に福井で取り組まれている事例の調査を計画しています。

山口直子会員：環境パネルの報告させていただきます。2008年度はバイプロ活用の豚肥育の見学にロッセ農場に行きました。また、COP10に関わって市民で取り組まれていることの学習会を行いました。生物多様性条約について知り、現状は名古屋市内で、例えば中学生でカブト虫の幼虫を知らない子が62%など、カエルでも46%が知らないなど、身近な生物を知らないということを知りました。環境パネルではフィールドに出ながら、共生社会をどうつくるか考えていきたいと思えます。

八田淳会員：地域福祉を支える市民協同パネルとして活動してきました。地域の実態、くらしの実態を見つめ、その担い手づくりを考えてきました。2008年度は、取り組みをまとめ、報告集を作成しました。そこをベースに、制度について勉強しようと、11月の学習会で、社会福祉法人の制度について学び、4月には、介護保険の制度を学び、コープさっぽろの事例もうかがいました。6月20日には、めいきん生協の方から話を聞きました。岐阜や三河地域の話を聞く場を、2009年度に計画していきます。

伊藤佐記子会員：地域福祉を支える市民協同パネルに参加しています。モデルづくりのために生協の福祉の実情

を知るといふことで、「おたがいさまひだ」を設立したことを報告します。コープぎふでは、モデル事業として「おたがいさまひだ」を半年かけて、地域にあった「くらしのたすけあい」の仕組みを模索してきました。先日の6月26日、飛騨地区で「おたがいさまひだ」の設立となりました。今までのたすけあいの会の約束ではまかないきれないこともあり、地域に合ったおたがいさま活動をするということでの今回の設立となりました。

猿木律子会員：三重の活動について報告します。三重では食と農をテーマに、白山町にある直売所のぬくいの郷、納豆の(株)小杉食品さん、研究センターのごはんたべよ一会のみなさんなど参加いただき、食料自給率の話をしました。少し難しい話でしたが、ぬくいの郷の美味しいお弁当を食べながら、意見交流でき好評でした。今年度は食生活を中心に検討していきます。

野田妙子会員：三河地域で行っている地域懇談会のことを報告します。2008年度は6月21日に安城デンパークで、「食と農」をテーマに行いました。11月29日には、「福祉」をテーマに、岡崎の勤労文化センターで行いました。終わってからみかわ市民生協のデイサービスセンターコープひなの見学も行いました。今年も、懇談会の実行委員会を募り準備してきました。「山のくらしに学ぶ」というテーマで9月26日(土)と27日(日)の2日企画を、新城文化会館で行います。過疎化、高齢化、限界集落のことなども考え合いたいと相談しています。

原勝行会員：決算の報告、予算の提案のところで、維持会費の見直しがあり、これまで発言してきた内容で整理されてきていると評価したいと思います。さらに改善をすすめ、維持会費の取扱で、税の関係でさらに整備していただきたいと思います。一方で2008年度の報告では個人会費が伸びていません。個人の参加について、ご検討いただきたいと思います。例えば生協では、職員が個人会員として参加する意味合いはどこにあるのかということになると思います。自分の思いの中から生協のあり方を考えるというふうに広げていければと思います。岐阜では自主研究会で第5集のセンスオブコープを作りました。ぜひお読みください。

樽松佐一会員：研究センターの活動が活発になり、生協にとっても意味のあるものになってきたと思います。日常活動と研究は違い、先進性を確保しようとするれば、こうした地に着いた研究活動は必ず必要と思います。私自身は、情報発信をしてもらって助かっていますが、もっと研究センターに参加すると、こんなくらしの知恵が湧いてくるとか、そういう情報発信をしていくことが必要でしょう。しかし研究ということがなかなか伝わりにくく、これだけすごい活動をしていて、マスコミには載りません。最近の話題では、あいち派遣村があります。反貧困でつながろうというのが私たちの運動ですが、学生のボランティアがたくさんきています。

松井賢子会員：みかわの個人会員で、三河に子供のころから住んでいます。津具へは子供の頃から遊びに行っていました。研究奨励助成では山里のくらしや伝承文化の聞き書きをしています。恵那・山里の聞き書きの本が発行されましたが、昨年は奥矢作の方を調べました。個人的には、津具へ取材に行きました。

以上の発言があった。発言を受け、質問には大島三津夫事務局長から、維持会費は供給構成比で4生協が分担している旨の回答があった。

向井忍常任理事が、下記のように理事会としてのまとめを行った。

11人の方から発言いただきました。パネルは私たちの活動を支えているベースになっています。パネルは生協関係の方、研究者の方、地域の団体など様々な方が参加されています。2009年度もこのパネルの活動を中心にしてと考えております。また地域のつどいの報告もいただきました。三重と三河では定着しております。テーマも食と農、福祉など、地域の中での横のつながりが見えてくる取り組みになっています。地域のつどいが広がれば、その地域で会員になっている皆様も、より参加の実感を持つことができるわけですので、岐阜地域・尾張地域でも会員のつどいを位置付けることができればと思います。研究奨励助成の進行状況の報告もありました。ぜひそれぞれの研究助成に取り組まれている皆様も、状況を報告いただき、こうした活動の課題となることなど研究センターとして考えていければと思います。維持会費についてもご意見がありました。会計上の処理が必要な場合は、拠出している生協と、年度ごとに相談し、対応していきます。個人会員の参加については、日常の中で起きている問題や課題を発信していただき、研究センターがどう力になれるか、地域で進んでいる状況に敏感になり、手ごたえを感じていただけるような研究センターになるようなことを考えながら進めていければと思います。マスコミへの発信や、社会的に必要なことへの発信も、ご相談しながら進めていければと思います。こういう研究センターをめざしていきたいと思っています。

以上をもって議長が討論を終え、採決に入ることを宣言した。

第3号議案の理事・監事の選出について役員選出管理委員の堀正子理事から、第5回理事会で地域ごとの定数を決め、立候補受付の告示をしたところ、理事会からの推薦者として33名の理事立候補と3名の監事立候補があったと報告された。続いて役員選考委員の井貝順子会員から候補者名簿に基づき立候補者の紹介があり、投票を行い、過半数の信任をもって選出されたものとする選出方法の説明があり、投票を行った。

投票の結果、役員選出管理委員が、候補者全員が過半数の支持を得て理事及び監事に選出されたことを宣言した。次の者が選出された理事・監事である。

理事	井関 道夫	磯村 隆樹	野田 妙子	平野 哲至	山口 直子
	朝倉 美江	岡田 祐成	小木曾 洋司	堀 正子	仲田 伸輝
	成瀬 幸雄	野田 輝己	八田 淳	向井 忍	吉田 濱一
	有本 信昭	伊藤 佐記子	岩田 妙子	鎌田 秀子	河原 洋之
	猿木 律子	野村 真弘	村上 一彦	杉浦 玄光	幸松 孝太郎
	大島 三津夫	大谷 光一	兼子 厚之	川崎 直巳	斎藤 勲
	田邊 準也	橋本 吉広	若井 和則		以上33名
監事	林 麗子	石川 美代子	森 晶子		以上 3名

また顧問の委嘱については拍手でもって承認された。次の者が顧問である。

顧問	高橋 正	丹生 久吉	野原 敏雄	中嶋 好夫	水野 隼人
					以上 5名

議長が第1号議案、第2号議案について、それぞれ挙手で採決を行い、各議案について過半数の賛成で提案が可決されたことを宣告した。採決結果は次の通りであった。

第1号議案	2008年度事業報告と決算承認の件	反対0	保留1	賛成145	で承認
第2号議案	2009年度事業計画と予算決定の件	反対0	保留2	賛成144	で決定

すべての議案の議決が終了したことを議長が宣言し、議長を退任した。司会の野村真弘常任理事が、通常総会の閉会をつげ、12時25分閉会した。

上記の議事を明確にするため、ここに本議事録を作成し、議長及び議事録署名人において、次に署名押印する。

2009年7月4日

特定非営利法人地域と協同の研究センター2009年度通常総会

議長 井堀 香 印

-----

議長 鎌田 秀子 印

-----

議事録署名人 吉井 弘和 印

-----

議事録署名人 天野 眞知子 印

-----

研究センターニュース特別号

---

特集 **2010年度通常総会議案**

(総会開催日 2010年7月10日)

発行 特定非営利活動法人  
地域と協同の研究センター  
代表理事 川崎直巳

発行 2010年6月4日  
〒464-0824  
名古屋市千種区稲舟通1-39  
電話 052-781-8280 Fax 052-781-8315